

## 授業評価・授業研究報告

美術教育講座・福井一真

平成 26 年度 2 年次後学期（金 2 限・3 限）の小学校教科科目「初等図画工作」についての授業評価・授業研究報告を行う。担当者：秋山敏行・福井一真  
登録学生数 118 名

### 1 授業の目的および概要について

本授業は「小学校図画工作科の「表現」「鑑賞」領域に関わる教材を制作し、学習指導に必要な基礎的な知識と造形力を育成し、用具・道具の使い方を習得する。」ことを目的としている。授業は課題制作を中心として構成し、道具の基本的な知識や技術の習得だけでなく、制作活動を通して子どもたちの活動に「共感」する態度を培うことを意識した内容としている。

### 2 授業を行う上での工夫

本授業は金曜日の 2 限と 3 限に開講しており、1 クラス 60 名程度の規模で実施している。また、授業の内容によっては本館 401 講義室だけでなく、木工芸室を利用している。しかし、木工芸室は 40 名程度での作業には適しているが、60 名でのこぎり・小刀・彫刻刀を取り扱う活動をするには安全性の確保等に問題があった。そこで、今年度は 1 クラス（60 名程度）を 2 グループ（1 グループにつき 30 名程度）に分けて、秋山と福井がそれぞれ 401 講義室と木工芸室で授業を行うことにし、上記の問題の克服を図った。その結果、安全性の確保だけでなく、各授業で学生一人ひとりに目が行き届くようになり、授業内容の質の向上にもつながった。

### 3 授業アンケートの結果

授業アンケート（平成 27 年 2 月 13 日に実施）は、101 名の回答を得ることができた。

#### 3-1 授業全体について

【総合的にこの授業は満足だった】という設問に対して、「まあまああてはまる」6 名、「とてもあてはまる」95 名、【全体的にこの授業を真剣に受けた。】という設問に対しては、「あまりあてはまらない」3 名、「まあまああてはまる」18 名、「とてもあてはまる」80 名という回答を得た。この結果から、授業全

体を通して、多くの学生が積極的に授業に取り組んでいたと判断することができる。【最後に何かあれば自由にお書き下さい。】という設問に対しては、59 名の記述があり、その内 47 名の学生から「楽しみながら必要なことを学べる」といった好評を得ることができた。受講者には課題の内容にかかわらず、自ら課題に取り組む姿勢、さらには課題を楽しむ工夫が求められる。こうした態度が、子どもたちの造形活動において共感的に学ぶ姿勢を培っていくのである。従って、このように多くの学生からポジティブな回答を得ることができたのは、本授業のひとつの成果であるといえるだろう。

#### 3-2 授業時間外学習について

【授業時間外学習の設定は適切であった。】という設問にたいしては、「あてはまらない」4 名、「あまりあてはまらない」2 名、「まあまああてはまる」49 名、「とてもあてはまる」46 名という回答を得た。本授業では「木のスプーン」をつくるという課題があり、小刀を初めて使用する学生にとっては、非常に難易度が高く、授業時間内に終わらすことが困難となる。そのため、授業時間外に週 1 コマ程度木工芸室を開放して補講を行い、補講時間に都合がつかない場合は道具を貸し出すようにした。そのため、【授業時間外学習ではどのようなことを行いましたか】という設問に対して、83 名の回答の内、73 名が自宅もしくは補講日に「スプーンづくり」の作業を行っていることがわかった。

### 4 次年度の課題

【本授業の改善点】についての回答は、授業時間外学習の時間設定や、木工芸室の作業環境についての回答を多くみることができた。補講日の設定についてはできるだけ学生の空き時間に行う工夫を行うこととする。作業環境については、12 月以降、木工芸室の気温がほぼ外気温と変わらない状況であったため、ガスストーブをつけるためのガス栓の設置というような、学生の学習の質を保障するための環境整備についても考えていかなければならない。